

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぷん第76号2018春』

発行 さざんか会法人本部/船橋市行田2-8-1/☎047-404-1135

編集 おーぷん編集委員会(けいよう)/船橋市二和西5-10-1/☎047-411-8177

おーぷん76号目次

- P1 「似て非なるもの」
さざんか会 理事長 宮代隆治
- P3 権利擁護はいま
- P4 寄稿『卒園にむけて』
- P6 各事業所秋だより
 - ・ゆたか福祉苑
 - ・カメラアハウス
 - ・けいよう
 - ・のまる
 - ・とらのこキッズ
 - ・さざんかキッズ
 - ・DD・のまのまホームズ
- P10 北総だより
 - ・北総育成園
 - ・笹川なすな工房
- P12 新人職員研修の報告
- P13 ランプ発
- P14 さざんか会
後援会だより

『似て非なるもの』

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

一見全く同じように見えても、中身は全然違っていた、というようなことは世間には良くあることです。

“偽ブランド”とは巷間見聞するところですね。高級皮革バッグ、名立たるメーカーの品が安価に手に入り、ほくそ笑んでいたところ、これが偽物であり本物とは雲泥の差、品質のお粗末さ等が露見、結局泣きを見る結果に、の話は枚挙に暇ないよう

「バッグに印された商標は全く同じだったのに…」偽物を本物のように見せかけ、到底本物に及びもしないことを承知で販売することは許されません。日常、私たちが行う売買の原則が損なわれます。信用がなくなってしまう。何を信じたら良いのか…。

残念ながらこのような現象が支配するのでは、という危惧が障がい福祉の施策として登場して来ています。偽バッグと同質

同根の問題とは言いませんが、
“似て非なるもの”であることに違いありません。



この4月に始まる障害福祉サービスの新しい報酬単価、これに伴いサービスに新しい施策が盛り込まれたり、枠組みが変更されたりします。これは3年前の報酬改定時から検討が始まったもので、以後徐々に具体化して来ました。今回は、共同生活援助事業(以下「グループホーム」)に関しての思いを吐露させて頂きます。

国は、施策の改正についての根拠として障がい者の高齢化や重度化、そして親なき後を視野にした施策の必要性を強調して来ました。例の「地域生活拠点事業」もその延長線上にあるものと解しています。

グループホームに関しては、より重度の人が利用し易い、利用できるものとしては、という意見が度々登場しました。より重度の人…とは。この意見が出されたころ、何をイメージしているのか良くわかりませんでした。誕生から30年を経過したグループホーム制度、今では全国に11万人以上の人たちが利用しています。入所施設を利用する人が約13万人、その数に迫り近い将来逆転するようです。

そんな中に、より重度の人が利用できるグループホームとは。

確かに、グループホームは誕生の頃は障がいの軽い人たちの利用するものでした。その後、施策の改正や先進的取り組みの結果、障がいの重い人たちも利用する事となります。少ない事例とは言え、今では医療行為を必要とする人たちや、所謂強度行動障害と言われる人たちの利用するグループホームも散見されます。当法人の取り組みも、重度最重度といわれる人たちの利用から始まりました。

現行の施策が、このような人たちの利用に十分対応しているか、と問われると首を傾けることも事実です。医療との関り、通院や入院への対応。休日や余暇も含めた日中活動への対応。何より、きめ細かい支援を展開する人手の問題等々、経済的な課題も含め安心安全にその人らしい暮らしが実現するに、まだまだ改善を要することは間違いありません。

そこで、今度登場したのは「日中サービス支援型グループホーム」というものです。現行の「介護サービス包括型」、「外部サー

ビス利用型」に加え、3番目の類型として登場しました。

今まで、障害者グループホームの入居者は通常平日の日中は外部で活動することが原則でした。つまり、ホームの昼間は誰もいない、と。そこに「昼間もホームにすることを前提として」となりました。高齢を迎えて外出しての活動等が困難になることもありましよう。毎日は無理でも、週2日くらいは外で活動を、ということもありましよう。何だか高齢者グループホームのようですが、現実問題として捉えられます。昼間も支援が必要とされるなら、その職員配置に評価を。看護師の配置にも評価を。これらが組み込まれた新しい類型のホームとなるようですが、問題はその規模です。定員20名も可とか。定員規模が倍になります。グループホームの更なる巨大化です。

18年前、「のまる」を設立したときハード的には大きなグループホームの集合体をイメージしてつくりました。10名ユニットを4ヶ所に。入所施設をグループホームに近付ける試みでした。今度は、グループホームが入

所施設に近付いて行くようです。20名定員で終日そこで過ごす、は小規模入所施設と言えるのではないのでしょうか。

グループホームの理念、何処にでもある街中の風景に住まいも人も溶け込むように、ごく自然にありますように。そこから醸し出される一人ひとりの暮らし、その実現を大切にして来たいつもりですが、更なる巨大化は何をもたらすのでしょうか。

悩ましい問題ですが、運営上のスケールメリットを優先させる施策はグループホーム制度の理念を蔑ろにするものになりかねません。

「似て非なるもの」の登場に戸惑っています。



権利擁護はいま

『歳を重ねて』

赤津 保子【ゆたか福祉苑家族】

「高齢化進行、加速しています」昔は、春夏秋冬のドライブや旅行先で、山桜やつつじ、山の根雪をバックに幼い息子にカメラを向けたものでした。通所先のイベントの集合写真には息子の友達も映っています。最近、そんな写真が部屋にばらまかれていくことがあります。もう中年の域に達した息子のしわざですが、あらためて懐かしい昔に思いを馳せながら、引き寄せて母子で見入ってしまいます。写真の中の息子は、0歳だったり5歳だったり、だんだん大人になっっていく姿に目を細めます。それにしても2人とも若い。走

り出しそうなツーショットは2人とも飛んでいます。

現在48歳の今の写真はなぜかサツと片づけるのは息子本人。あまり見たくないのは母親も同様です。お互い衰えを感じているようです。でも、息子の腕力はいっぱし。先日は、引っ張りまわされた勢いでおでこをテーブルの角にぶつけてたんこぶを作ったのは私。衰えた！歳をとった！と実感したただけでなく、これからは転ばないように、引っ張られたら抵抗せずについて行くことにしようと思えない決断をしました。息子は、ともかく2人になりたい一心で「ここに座



って、ボクの相手をしてー」と私を追い回すのです。一緒にごろ寝しながらこだわりのゴジラ映画を見たり、文字を書いたりすると本人は満足そうですし、私もラクチン。そのような時、ふと歩けなくなったり、認知症になったりしている私自身が見えてきてどきりとなります。私の小学校時代からの親友が一昨年亡くなりました。病気だったとはいえ、シヨックは誰にも言えないほどでした。そういう歳なのですね。それでも、私だけは、と根拠のない強がりでも押し通していました。具体的に何をしておけばよいのかがよくわからないのです。家族は、預金通帳や保険証書のありか、かかりつけ医を知っているだろうか、日頃の会話の少なさを反省しています。これこそが終活？ そう、もう他人事ではありません。まし

て、障害のある息子のことは家族全員で共通課題として、日頃の会話にちよこつと入れ始めました。「親心の記録」勿論全部は埋めていませんが、息子の日常の様子・様々な書類や手帳などの管理方法・病院や薬局・趣味嗜好・連絡先は書きました。また、親心の記録にポケットを作り、現金を少し入れました。万が一の時に、息子の世話をしてくれる方が身内とは限らないし、金融機関が休みの場合があるからこれで万全とは言えませんが、準備に力と愛を込めて、息子のことを含めた終活をしていきたいと思っています。

そして、最近、思ったことは「そうだ！親なきあとの息子のことは今ある支援を信頼し、将来にも期待してよし！心配しないことにしよう」です。そんな母でいいですか？

私用には高齢者福祉や訪問医療のことなども調べておこうと考えています。どんなに準備をしても、思った通りに行かない、なるようにしかならないでしょう。その時が来るまではやっぱり元気であることが準備より大事ですね。



「宇宙人と私」

〜障がいのある息子を育てて〜

「障がいがなかったら」と何度思ったことでしょうか。きっと、これからも何度も何度も思う事でしょう。

私の息子は知的障がいのある自閉症スペクトラムです。「上の子とは何かが違う

…」と疑ったのは、息子が1歳くらいの時だったかと思います。表情の乏しさ・呼んでも反応がない・コミュニケーションの取りづらさからでした。息子が2歳になり覚悟して相談機関へ通いましたが、私の「覚悟」も虚しく、思っているようなアドバイスは貰えず足踏み状態で一年間を過ごしました。担当の方が変わってから歯車が噛み合うかのように、自閉傾向・発達検査・診断・療育手帳取得・市外の療育教室と市内の親子教室に通い出し、たった半年で大きく前進しました。

診断を受けた時、正直私はほっとしました。「普通」と言われたら、もうどう育てたらいいのか分からなかったからです。自分の想定を超える子育てでした。でも、やっぱり悲しくて泣く事も沢山ありました。沢山泣くのは私が息子をそれだけ愛しているからなのだと思います。世の中には、どんなに願っても叶わないことがある、どんなに思ってもどうにもならない事があるのだと、恥ずかしながらその時初めて思い知りました。

育児書が全く通用しない子育てで、将来を不安に思う私でしたが…。それ以上に言葉も通じない捕らえられた宇宙人かのような息子は、人から与えられた情報を吸収出来ず、不安だらけの日々を過ごしていたのです。当時の私は余裕がなく、母として人として考えるはいけない事を頭によぎらせてしまう状態でした。

そんな中、息子が年中さんになる年に念願のとのこキッズへの入園が決まりました。周囲に対して警戒心・不安や緊張が強い息子ですが、先生方に沢山可愛がってもらい甘える事が出来るようになりました。給食も完食出来る日があり、トイレも覚え、お友達の存在も気にな



るようになりました。障がいの症状はこれからも変わらず、内面が大きく成長する事は難しいのかもしれませんが、園で覚えた事は確実に息子の「今」につながっています。先生方、本当に本当にありがとうございます。また、障がいのある息子が縁で出会えたお友達や手を差し伸べてくれた方々にも感謝です。

これからも大変な日がある事は間違いないですが「あんな事もあったね」と今を懐かしんで、笑えるようになれば良いなと思います。

とのこキッズ 保護者 梶本 由香子



『卒園にあたり』

我が家の子供たちは
年子の兄妹です。長男の
勇希（ゆうき）は四月よ
り特別支援学級の2年生
になります。長女の愛海
（まな）は4月より勇希
と同じ特別支援学級に入学します。



迎える事：勇希が1歳半検診の少し前に船橋市に引っ越してきました。歩行もまだ、発語も標準以下で検診後すぐに発達外来に行くように勧められ病院を受診すると「軽度の知的障がい」の判定でした。

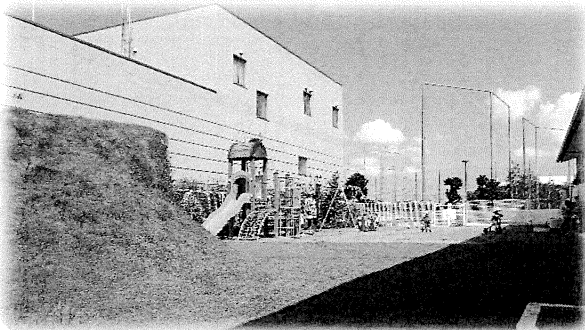
それからは夜な夜なパソコンに向かい、「どのように育てていけば良いのか」「どこの病院が良いのか」等を必死に探し、「あっちの病院、「こっちの病院」と駆け回る日々でした。市の保健師さんに相談をしているうちに、東部保健センターで行なっていた「ひよこ教室」を教えて頂き、愛海もボランティアの方が保育をしていてくれると言う事で通う事にしました。

そして勇希が3歳になり「たんぽぽ親子教室」へ通う事になりました。愛海は1歳7か月になりました。彼女もまだ歩行せず発語も遅く固形物は食はず。2人の成長の遅れに途方に暮れる日々。その後、勇希が4歳になり

愛海が3歳になり、1日おきに週4日親子教室と日中一時支援事業所を行ったり来たりの生活が始まりました。今思い返せば「良くやっていたな!」と思ってしまうですが、この時は自宅で2人に向き合う事の方がとても大変で、親子教室で勇希・愛海とそれぞれしっかり向き合えて、一緒に通っているお母さん達とのお喋りが私にはとてもストレス発散になっていました。

この頃には発達でお世話になっていた病院で2人は検査入院しましたが、結果は異常なし。その後しばらくして2人共に「自閉症スペクトラム障がい」との診断ができました。診断名が出た事のショックもありましたが、それにより今後の子育てや子供達の特性・就学・就職・将来を広い視野で考えられる様になりました。

そして勇希5歳の4月から3ヶ月間は「さざんか学園」7月から愛海2人揃って「さざんかキッズ」へ通う事になりました。親の心配をよそに、バスから笑顔の先生に安心して「行ってきま〜す」とニコニコ手を振り登園していく2人に成長を

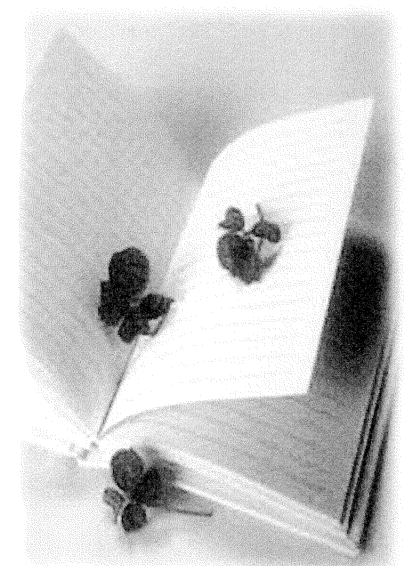


感じました。

リーダー風を吹かせたり、年下の子の面倒をみたりお手伝い大好きに成長した息子。年中になって急にお喋りになり年長ではどんな女子になる娘（笑）成長する度に違う悩みが出て、思い悩む事もありますが子供達の笑顔を大切に今後の成長に寄り添っていけたらと思っています。

最後になりますが、勇希・愛海、そして私自身も成長出来たのは沢山の先生方のおかげと本当に感謝しております。卒園後も子供たちが成長した姿を見てもらいに遊びに来たいと思います。

さざんかキッズ保護者 篠原 泰子



ゆたか福祉苑

〜冬便り〜

早いものでもう年も明け、年度末を迎えています。

私は年末に体調を崩してしまい、お正月も

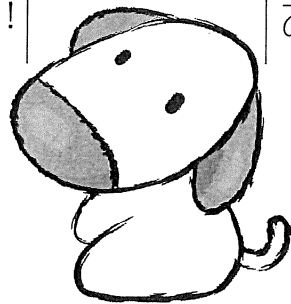
本調子ではありませんでしたが、小学校1年生の
いっこにお年玉を渡すべく外出。

案の定外でたくさん走り回り、子どもの体力に
驚かされ、自分の衰えに驚かされ…。

まだまだ若い、と思っではいるものの、日頃
の怠慢を改めなければと思う今日この頃です。

そんな訳で、私の今年の目標は定期的な運動！

です。ご利用者様と一緒に、体力維持を目指して身体を動かせれば良
いな、なんて。



さて、ゆたか福祉苑では1月13日に
土曜登苑日がありました。

お正月、ということでお茶会も勿論
ですがホールではご利用者様皆で集ま
って、お正月遊びを行いました。

けん玉や輪投げ等で遊んだり、食堂に
集まってお茶会を行って、皆さん素敵
な笑顔を見せて下さいました♪

カメラリアハウス

〜冬行事〜

★マリンマラソン出場！

1月21日(日)に利用者さん1名と施設長

が参加するマリンマラソンの応援に行ってきた
した！天候にも恵まれ、いつもとは違うランニ
ングユニフォームを身に纏い、嬉しそうな表情
をしながらスタートしていきました。ゴール付
近で2人を応援しようと待っていたのですが多
くのランナーで残念ながら見つけることは出来
ませんでした。昨年よりも5分弱タイムを縮め
てゴールしたそうです！走り終えた後は疲れた表情を見せられて
いましたが、練習の成果を出すことが出来たようで良かったで
す。



記 松田

★船橋市役所の合同販売会に出店しています♪

お待ちして
います!(^_^)!



1月23日、26日に船橋市役所で福祉施設合同
販売会があり、出店してきました！ほぼ毎月販売
があるので常連のお客様も多く、たくさんのお客
様が足を運んで下さいました。参加事業所でシフ
トを組み、販売員として働いています。自分の事
業所はもちろん、他事業所の作品の紹介をしたり、
商品の品出し、袋詰めなどを行っています。
様々な作業所と合同販売を行うことができ、他事
業所のアイデアやアドバイスなどももらえるの
で互いに良い刺激になっています！3月にもある
ので是非足を運んで下さい！！

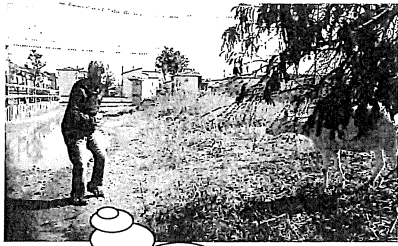
お楽しみ

～お楽しみ～

今年は4年振りの雪も降り寒い日々が続いていますが、利用者さんは散歩や買い物を楽しんでいます。そんな日々の様子を紹介します。

左の写真はけいようの周辺を散歩中、ご近所で飼われているヤギに興味津々に近づいている所です。また、近所のたまごやさんには、うさぎや鶏がいるので『かわいいね』などと笑顔でスタッフと言葉を交わしています。

室内で作業している時とは違う開放感ある姿を見ると、利用者さんにもっと楽しい体験を



ヤギさん
何もしないから大人しくしてね…



ホットー息！
温かい飲み物を飲むと身も心も温まります！

休憩中に記念撮影
ハイチーズ！



して頂けるよう頑張らないと！と気合が入ります。

右の写真は馬込霊園で、みんなで記念撮影です。寒い中、皆さん元気に歩かれています。

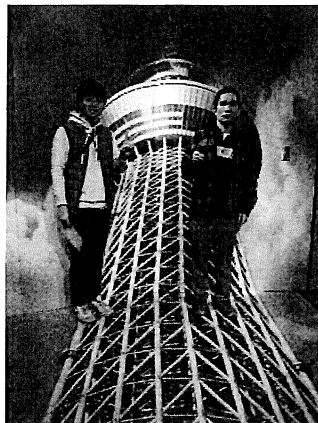
左の写真は二和西公園で休憩中の写真です。月曜日はシューズの日と設定しています。途中の自動販売機でお好きな飲み物を買って、休憩している所です。

のまる



冬のお出掛け

のまるでは「お誕生日企画」としまして年に一度のお楽しみで個別外出に行っています。暖かく、お出掛けにはとても丁度よい気候でしたので利用者さんも楽しめたかと思えます。今回は空港、東京スカイツリーでの様子をご紹介します。こちらは雨天でも予定の変更なく行けるので人気の場所になっています。ほどよく散歩ができておいしいランチもいただけます♪メニュー選びには個性が出ています。

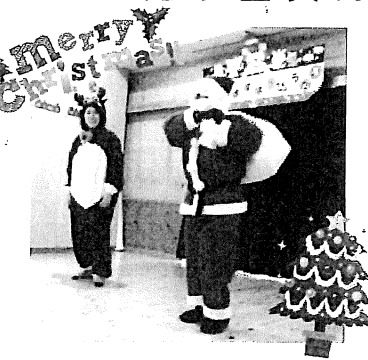


5月のキッズ



寒い日が続いていますが、とらのこキッズの子ども達は毎日元気いっぱいです☆今回は冬の様子をお伝えします。

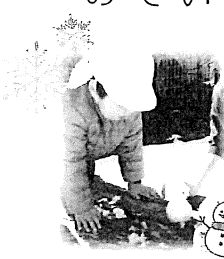
12月9日(こあら組・さくら組)、12月16日(いちご組ひよこ組)は、クリスマス発表会がありました。各クラス、お子さんのかわいい姿がたくさん詰まった発表で、親子ダンスや職員の出し物、サンタさんの登場と大盛り上がりの1日でした！発表会以外にもサンタさんに会う機会がたくさんあり、プレゼントをもらってウキウキ、ワクワクな12月でした！



1月10日は獅子舞集会、2月5日には各クラスでの豆まきがありました。獅子舞や鬼の登場に驚き、担任に助けを求める子、勇敢に立ち向かう子と様々でしたが、獅子舞には頭を噛んでもらい、鬼には豆を投げて退治!!今年も1年、元気に楽しく過ごせるようにとお願いしました♪



先日は雪が降り、私達職員は道路の雪かきを頑張りました。が、キレイに雪が積もった園庭は雪で遊び放題!!ということで、子ども達は冷たさを感じながらも、たくさん触って遊びました！寒い日には、みんなで足湯に入ったりもしています。寒さに負けじと、冬ならではの遊びを楽しんでいる今日この頃です☆



さざんかキッズ



〜冬使の〜

年が明けてあっという間に時間が流れ、気付けば29年度もあと少しとなりました。残りの時間も皆でいっぱい遊んで楽しく過ごしたいと思います☆さて、冬も行事が目白押しだったさざんかキッズをご紹介します♪

クリスマス



今年もクラスのアイデアたっぷりの発表会☆子ども達の大好きな絵本を題材にしているクラスや上手に合奏しているクラス等と内容は様々！たくさんのお客さんの前で堂々と発表する子ども達の姿にたくましさを感じました*

にし組さんは楽器を使って一日たくさん音楽を聴きながら楽しいクリスマスを過ごしました☆どのクラスにもサンタさんが来てくれて、素敵なプレゼントに子ども達は大喜びでした！



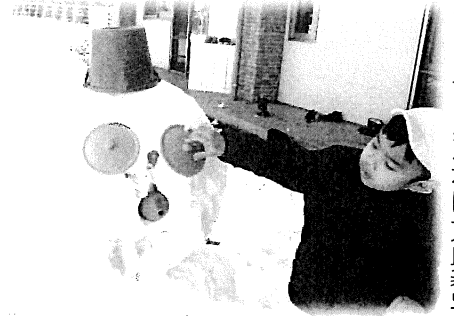
そういえば、1月は雪が2回も降りましたね☆さざんかキッズの園庭にもたくさん積もったので、普段出来ない雪遊びに子ども達は大喜びでした！

ししまい集会・豆まき集会



年が明けてからは獅子舞と鬼がさざんかキッズに遊びに来ました！子ども達にとってはちょっぴりドキドキする(?)出来事でしたが、獅子舞に頭をかじってもらったり鬼には豆を投げたりと、この季節ならではの活動も盛り沢山でした☆

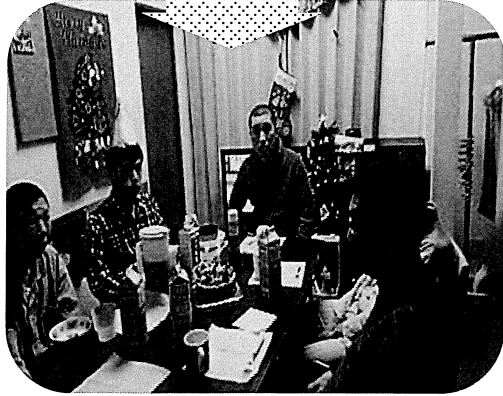
きっとさざんかキッズの子ども達は今年も元気いっぱい過ごせますね♡



保護者の皆さま、自主登園のご協力、ありがとうございました。



◎ジャントニオ…カメラにしっかりポーズ!



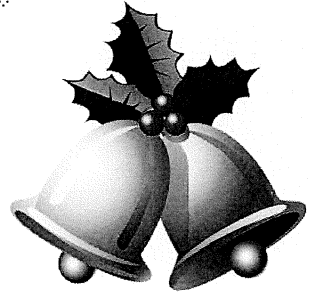
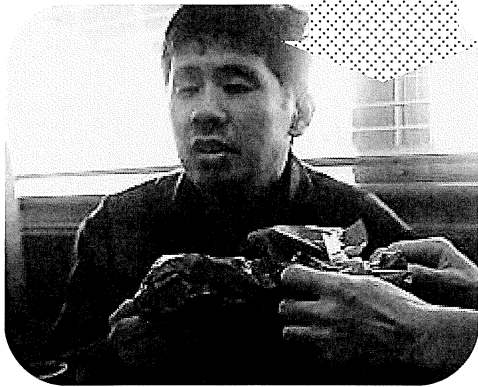
★今回は、各ホームのクリスマス会の様子をお伝えします!

ホーム便り

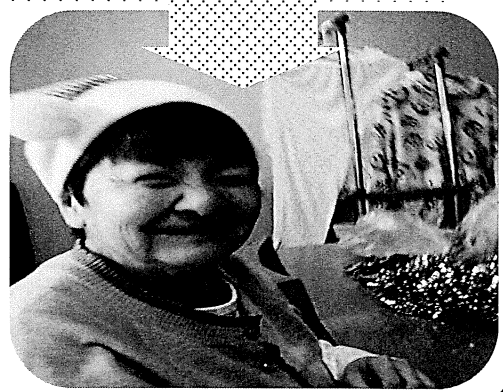
◎ときわ…今日は、大ご馳走ですよ〜!



◎ドドンパ…今年は、外食会になりました。



◎にこにこ…準備の時間も楽しいです。



北総の里だより

第14回千葉県知的障害者福祉協会自立支援セミナーに参加して

【北総育成園支援員 加瀬裕一】

私は平成30年2月3日に自立支援セミナーに参加させていただけました。日頃現場にて仕事をしている私にとって「報酬改定」などの内容には正直ついていけないかと不安な部分がありました。大変学びの多い内容でした。

基調講演「これからの社会、これからの障害者支援」講師毎日新聞論説委員野沢和弘氏の講演は、「日本がこれからどういう社会になるか」という視点で、人口減少時代の福祉の役割というテーマでした。障害者福祉が措置制度であった時から現在の総合支援法に至る流れの中で、法律の整備や国費からの予算の変化、現状における諸々の課題につい

てお話がありました。普段私は北総の利用者支援の現場で業務をしています。改めて自身の仕事は日本の社会の動きの中でどういうものなのかという視点で考えることができました。講師の野沢氏のお話は一般的な情報だけでなく、自身の取材に基づいた非常に具体的で血が通ったお話で、私には難しい内容もありましたが、ぐっと心が揺さぶられました。労働力不足の問題については、ご自身の体験や取材に基づいた「福祉人材確保法（仮称）」という提案があり、福祉業界で働く人の想いがうまく表現されていると思いました。労働力不足の問題は、新卒者の減少・離職者・業界のイメー

ジ・リクルートの仕方などの原因が挙げられましたが、私が思うには「職場が自分の居場所」になっているかどうかだと感じます。自身が色々悩みながらも北総の仕事が続いている理由を考えると、前職の経験と、北総の仕事では自分の居場所や役割があり、様々な研修や業務の中で色々な体験が出来ること、必要とされていることを感じられていることだと思えます。先輩職員がよく面倒を見てくれ、後輩職員が助けてくれる人間関係のある北総で頑張ろうと思っ

ています。「自分には出来ない仕事がある楽しさ」「利用者との関りの面白さ」「国が認めてくれる仕事」「チームプレー」と個人の責任のある仕事」等が障害者福祉の仕事が続けるモチベーションだと思つので、それらのPRが人材確保のポイントなのでは考えます。北総の理念である「出番と役割のある暮らし」はそのまま職員にも当てはまっているのだと思います。

また今後の日本の高齢者の増加と人口減については具体的な数字が沢山出てくることとて

も分かりやすく現実味を感じました。障害福祉に携わる我々に対して、①コミュニケーションの再生、産業振興、②人間らしい能力・文化芸術、③生きにくい人々を支援する牽引役といった重要な役割があり、講演を聞きながら「あなた達は世の中に本当に必要の人達、頑張って！」という野沢氏の温かいエール、メッセージを感じました。

研修に行く前は理解できるか不安でしたが、講師の方々がその豊富な知識と経験から非常に具体的なお話を下さり熱い思いが伺えました。まだまだ分からないことだらけの私ですが、北総の仕事を続けることで、障害者福祉の世界で少しは役に立っていかれると思えました。今回の研修では日頃とは違った視点で自分の仕事を見ることができました。これからも北総でこの仕事を自分らしく面白がりながら、利用者と職員の間関係を大切に、時には失敗や反省をしながら、謙虚な気持ちで大切に仕事を続けていきたいと思

いました。これからもよろしくご指導ください。

笹川なずな工房

就労に向けた取り組み

支援員 吉田 太郎

笹川なずな工房では就労移行支援施設として利用者さんの一般就労に向けた取り組みを行っています。2月には2名の方が就労実習

の為に、近隣のゴルフ場、デイサービス施設へ行き実習を行いました。2人とともグループホーム野の花を利用している方で、ホームから実習先へは1人で通います。その為に

電車にも事前に職員と通勤方法、道路、電車の利用など確認を行うことから始まり

ます。普段はホームから目の前のなずな工房までの距離を歩いて通所していますので、実習にあたってはまず通勤が1つ大きな課題にもなっています。何時に

ホームを出て何時の電車又はバスに乗るか、着いた駅からは自転車又は徒歩で何分かかり実習先へ到着できるか、1つ1つ職員と一緒に確認を行っていきます。初めて

の場所でも実習を行うことは利用者さん達にとっても不安と緊張、戸惑いもあると思います。

そのような中でも利用者さん本人の「就職したい!」という思いを受け、なずな工房での生活、作業の中で学んだ経験を活かせるように、社会人として基本的な挨拶、報告の必要さを繰り返し作業を通じて身につけられるように伝えて

います。そして就労に向けた意識付けと目標を明確にして関わるように意識しています。就労移行支援は基本的に2年間の間で就労するという制度上の決まりがあります。そのような中で実習に行く機会は何度もあるわけではなく、受け入れて下さる企業さんとのタイミングもあります。実習や就労にあたっては外部機関との連携も重要になっており、就業支援センタ

ーさんからの紹介や自分達でハロワークへ出向き求人情報を利用者さんと一緒に確認して情報を集めることも行っています。実習終了後は就業センターさんを交えた振り返りを行い、良かったところ、足りなかったところを見直して次に繋がるようまとめを行います。

平成30年度からは障害者雇用の法定雇用率が現在の2.0%から2.3%へ引き上げられ、平成35年度も段階的に引き上げられます。企業側も障害者雇用を求める動きと雇用機会も多様化し、地域によって違いは出てくると思いますが、今以上に障害を持った方々の働く環境の裾野が広がり活性化される

ことが予想されます。こういった状況の中で利用者さんご本人とご家族の意向、そして企業側のニーズをしっかりと把握した上で「働く」ことの不安やリスクを最小限にし、両者を結びつけることと、就労後のサポートが大切になってくると思います。これは私たちの施設だけでできることではなく、施設長からも常日頃よりご指導頂いている「色々な機関が寄って

たかって一人の人を支えていく」ことが大切だと改めて思います。一年半前なずな工房から実際にスパーに就労したEさんは就労後もよくなずな工房に足を運んでくれます。今やっている仕事のこと、休みのこと、お給料のこと等々話しは尽きませんが一番に感じるのは社会に出て「働く」ことで得た大きな自信と充実感だと思います。休みの日には工房の作業の手伝いにも来てくれるEさん。就労してから施設との関わりが終わりではなく、施設の行事で声を掛けられてくれる方もいます。

就労にあたっては「継続」や「定着」に重きをおいた長期的支援を大切にしていますが、実際に就労しても必ずしも一度ではうまくいかないケースも出てくると思います。そのような時に再度チャレンジ出来るように戻る場所があることも大切になっており、なずな工房はその役割も担っています。日々変わっていく制度をしっかりと勉強し把握して利用者さんを支え、今後も就労に向けた取り組みと就労後の繋がりも大切にして業務に励んでいきたいと思っています。

11

平成29年度 新任職員研修会

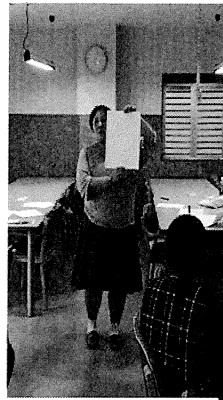
今年度船橋市内の事業所に入職した新任職員を対象に、全3回の研修会を実施しました。

前年度途中から入職した方にも参加を呼びかけ、対象者は10名となりました。

●第1回（5月24日）は、初回ということもあり、お互いの顔やキャラクター性を知り合い、同期メンバー同士の繋がりを深めてもらいたいということで、ディスカッション形式で進行了ました。

導入のお題『新元号を考えよう』で肩の力を抜き、『ちょっと困っていること』、『今頑張っていること』、を語り合いました。皆が同じように悩んだり躓いたりしつつも、それぞれ頑張っていることを実感し、その上で『目指す支援者像』についてディスカッションしました。最後に『仲間にするメッセージ』として、互いにエールを交換しました。入職2カ月弱、緊張や混乱に悪戦苦闘を繰り返す中、仲間との語

らいで安心と希望が膨らんだようでした。



新元号発表!?

●第2回（7月26日）は、魔法のランプの山田朝広管理者から、魔法のランプが行っている各種事業の紹介と仕事を通じて感じた事や経験談をお話していただきました。

対象メンバーは児童発達支援か生活介護および就労継続B型に配属されており、建物の中で待ち受けるところから始まる支援になります。そのため今回山田氏からは、移動支援や行動援助など建物の外へ出かけて行く支援のエピソードを中心に話していただき、普段お迎えしているお子さんや利用者さまが社会の中でどのような過ごし、どう受け入れられているのか、ま

たどのような扱いを受けることがあるのか等を聞いてイメージしながら、ご本人及びご家族の思いをより知ろうという機会としました。

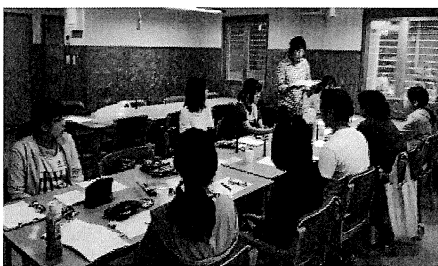
時代とともに少しずつ、差別解消や合理的配慮の考え方が浸透してきている事、逆にいまだ無理解や偏見で辛い思いをする場合もある事、或いはたまたま隣り合わせた一般の人と意外なほど波長が合い、軽妙に会話が弾んだお話などを聞くことができ、いわゆる箱形の支援からは見えにくい所に触れられたことで、新鮮さと視野の広がりを感じられたように思いました。

●第3回（9月27日）は、入職からおよそ半年が経過し、少し仕事に慣れてきたところで、改めて自分の所属する事業所の役割そして自身の仕事の内容や求められていることについて見つめ直す機会になればということで、各々から『事業所紹介&事業所自慢』を発表してもらいました。

参加者の中には、紹介する内容を考えながら事業所内の様々な場面や事柄が次々と頭に浮かんできたことで、仕事に慣れてきた自分や自身の成長に気付いたという方もいました。また、同じ事業所から複数名参加しているところもあり、共通する部分もあれば、それぞれの視点で自慢や紹介をしていて、お互いに新たな発見や刺激を受けたとの感想も聞かれました。そして、どの発表者も、自身の所属する事業所において、利用してくださる方々を大切に利用していただき、支援者は子ども目線、利用者目線で寄り添い尊重する姿勢が共通していました。

最後に、カメラリアハウス藤敷管理者から、第1回目でディスカッションした『目指す支援者像』に少しずつ近づいていけるよう、お互いに切磋琢磨していきましようというメッセージが送られました。

【ゆたか福祉苑 尾村 勉】



参加者各々から、我が事業所の紹介と事業所自慢を発表し合いました。



ランプ発

こんにちは。魔法のランプの小池です。おーぶん初登場になります。初めに、魔法のランプからお知らせをさせていただきます。魔法のランプは三月末に引越しいたします。新住所については、当法人のホームページから魔法のランプを選んでいただく、その中に掲載してありますので、ご確認ください。現在の事務所のすべ近くになります。

さて今回、『日々のサービスでのエピソード』というテーマでお話をいただきました。魔法のランプのサービスはマンツーマンになるので、ヘルパーの個性や特徴がダイレクトに反映されます。その中で小池の特徴をあげると、『写真撮る人』になるかと思えます。当時魔法のランプに興動したての頃は、初めて行く場所が沢山ありますし、せっかくなので記念に残そう、そして終了報告のアイテムとして、ご家族の前では見せない

い表情などをお届けしようという日々、写真を撮って参りました。そんなやり取りを十年以上続けています。サービスに入る頻度がバラバラなので、枚数についてはかなり個人差がありますが、長年取りためた写真は新しい職員やヘルパーが来たときに大活躍。「この方はこれにハマっていて…アレが好き、この場所によく行く、この店やこの食べ物が好き、これは嫌い」だとか、百聞は一見にしかずという言葉があります。が、写真と一緒に説明すると大変分かりやすいのです。もちろん、ご本人に写真を見せて「どこに行きますか？何を食べますか？」と選んでもらうこともできます。



また、小さい頃からランプをご利用している方などは長年の成長記録のようで、たまに見直すとあの頃はあーだったなあと思

出します。基本的に楽しい写真だけを残しているのですが、時には嫌な思い出、失敗した思い出の写真もあります。失敗した経験を忘れずにいることで次の支援に繋げる事ができます。公式なものではありませんが、私にとっては大事な記録です。



ただ、申し訳ない事に、写真そのものを全てのご家族に渡さず、現状があります。小池に写真は見せて貰ったけど、写真そのものは貰っていないという方がいらっしやいましたら小池までご連絡ください。CDでよろしければすぐにご用意致します。CDでも、パソコンで見られますし、パソコンが無くて、今はコンビニに持って行けば、コピー機などで写すことができます。それから、魔法のランプホーム

ページでは月に一回の更新で、お出掛けした先や内容をご紹介しています。この機会にぜひホームページをご覧ください。

魔法のランプのホームページ



↑スマホや携帯のQRリーダー等をご利用ください。

※尚、魔法のランプでのサービス中に撮影したご本人の写真は、許可なく公の場に公開することはありません。ホームページ等で公開しても差し支えありませんと言う方は是非、小池までお知らせ下さい。

(魔法のランプ サービス提供責任者 小池)

◇お知らせ◇

行動援護ヘルパー及びサービス提供責任者の要件について、以前平成三十年三月までとお伝えしましたが、平成三十三年までに経過措置が延長されました。同行援護については延長されませんでした。

後援会だより

29年度第3回さざんか会

後援会評議員会報告

平成30年2月1日(木)けいよう会議室をお借りし、今年度第3回の評議員会を行いました。

藤澤会長の新年のご挨拶に続き、さざんか会宮代理事長から次のようなお話がありました。

①障害者虐待について

福祉従事者によるスキルや知識不足及び倫理観や理念の欠如等が発生要因と分析されています。職場環境も、ふさわしい緊張関係が整備される等の必要がありますしよ。

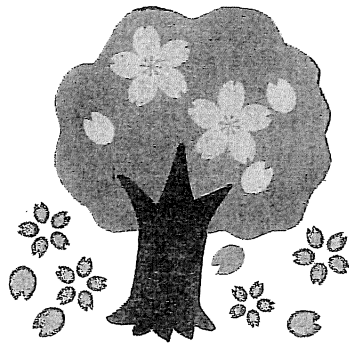
②平成30年度障害者福祉サービス等の報酬改定の基本的な方向性について

グループホームの印象が変わりそう。昼間もグループホームで過ごすということが制度化され、

24時間の職員配置もあり、高齢者のグループホームと似たものとなりそう。

障害福祉サービスの持続化の確保とサービス提供を行うための報酬の見直しについて。短期入所における長期利用の適正化(長期の利用が難しくなる)が予定されているようですが、長期にわたり短期入所に頼らざるを得ない状況もあり、自治体も困惑気味では。

計画相談については、相談支援専門員の担当件数の制限もあるよう。特に子どもの場合、セルフプランが多用されている現実、今後の動向が懸念されます。



さざんか会後援会

総会のご案内

◇日時：平成30年6月5日(火)

受付 午前10時より

総会 午前10時30分～11時30分

◇場所：薬園台公民館 第1・第2集会室

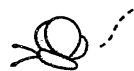
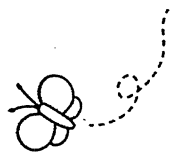
新京成電鉄 薬園台駅より徒歩5分

◇議題：平成29年度決算 事業報告

平成30年度予算 事業計画 他

※午後の部 午後0時30分～3時

理事長はじめ各施設長・管理者を囲み
シンポジウム



編集後記

おーびん76号はいかがでしたでしょうか。この76号が29年度最終号となりました。

1年間、ご愛読(っ?)いただき誠にありがとうございました。誌面作成にあたりご協力頂いた皆様はこの場をお借りして感謝申し上げます。今後もおーびんをどうぞ宜しくお願いいたします。